

プロット「かまどのめし」



20231018



エリー



目次

プロット	1
メモ	5
OKプロット	6
メモ「かまどのめし」20231020	11

プロット

セントラルクエッション

「カエデはうまい飯が炊けるようになるか？」

1、登場

主人公について書く。

カエデは、不器用だが、一生懸命な女の子。
ヤカンのお茶を運ばせれば転ぶ。
洗濯物をたたませればしわしわ。
でもやりたがるし、できるようになると信じている。
周りも下手でもやらせて、応援してる。

2、背景

世界設定を簡単に書く。

2173年の日本は、環境に配慮して、藁でかまどごはんを炊いて、村単位の給食で食べるようになった。
実践教育で、子どもにもやらせる。

3、発端

異変・事件を起こす。

7歳になったカエデは、大人の付き添いで初めてごはんをたく。
気になって蓋を開けてしまう。
→失敗。芯の残った飯になる。

追加メモ

お母さんが教えてくれる。
都会では、電気釜で簡単に炊ける。失敗しづらいが、最高にうまくならない。
かまどのめしは、最高を目指せるからよい。
といわれる。

4、目的

問題や課題を明確化する。

8歳で一人で炊くようになる。
やりすぎて焦げたり、
やらなさすぎて芯があったり、
まったくうまく行かない。
→死ぬまでにうまくなるぞ！ と決意する。

5、初動

主人公の決意と覚悟させる。

みんなカエデが当番の時は不味いと思ってることを知る。
→「今日はどんなできかな？」の一言を悪くとる。
→「米炊きやめたい」と母に泣きつく。
→「失敗しても食べてくれるのに期待に答えないでどうする！」と叱責させる。
→「お前ならできる。お母ちゃんが死ぬ前にうまいめしをたべさせてくれ」と抱き締める。

6、障害

行動させて試練にぶつける

自分の子どもが初めて食べて、「まずいからいらない」と言ってしまう。
→「頑張ってる母ちゃんになんてこという！」と周りが怒るが、
→カエデは「本当のことだからいいのよ。叱らないで」とかばう。
カエデ23歳。子ども3歳。

7、助力

ヒントや助けを得させる。

→村で一番上手な年下の少女に、やってるところを見せてもらう。

8、達成

成果と成長を実現する。

何年もやってきたから、今度は意味がわかって、普通に炊けるようになる。
こげてない！
芯もない！
周りは喜ぶ。

母もほめてくれる。

9、難問

新たな問題を発生させる。

「うまい！」といわれたいが、工夫の仕方がわからない。

10、無援

助け無しで苦境に苦しむ。

自分なりに工夫してみるが、そんなに違いがない。

→総合力だからパーフェクトでないとうまにならない。

11、窮地

危機と絶望を味わわせる

「うまい！」と言わせることができないまま母が亡くなってしまふ。

→「普通でいいのよ。普通で十分」と慰める。

→でもカエデはうまいと言わせて安心させたかった。

→ショックで米炊きができなくなる。4月くらい。カエデ50。

12、光明

逆転と起死回生の一手を示す。

→8月の合同葬儀で、米を炊くように頼まれる。お母さんの初盆だから。

→乗り気じゃなかったけど、「カエデが炊かないなら今年は飯抜きだ！」と言われて渋々やる。

13、勝負

最終課題と対決・対峙させる。

母に言われたアドバイスを思い出しながら、確実にこなしていく。

→見た目は美味しそうだ。

→最初のごはんをお供えする。

→葬儀で心の中で「うまいごはんをたべさせたかったよ」と泣く。

14、結末

決着と結果を示す

給食室に戻ってくる。

→カエデはまだ自分が炊いたごはんをたべてない。うまいごはんをたべさせられなくて悲しくて泣いてる。

→村人が食べる。変化にきづく。たべろと強くカエデにすすめる。

→たべてみる。うまい。

→悲しみの涙が、喜びの涙に変わる。

→葬儀に合わせて帰ってた子どももほめてくれる。

「おまえ、まずいけなしたくせに」

「そうだっけ？ おぼえてない」

15、閉幕

おまけで後日談を書いてもいい

カエデが 60 で引退する。

10年、うまいめしをたべさせて、カエデは満足してる。

村人と「ハラハラどきどきのカエデ飯が懐かしいと笑い話にされてる」と給食で話しながら、できるのを待っている。

→初めて一人で炊いた子どもが、芯のあるごはんを炊いてしまう。

→みんな懐かしい。

→「この子は何年で炊けるかな？」とみんな思う。

メモ

X(ツイッター)のDKさんの資料を使用

教えるのではなく、やらせて考えさせる教育のメリットはなにか？

長所は生きてる実感があることだろう。充実した人生になりやすい。

短所は結果が出るまでに時間がかかること。

不器用だけど一生懸命なら、応援したくなる。

馬鹿なりに愚直に勤めてたら、大目にみる。

うまくできないにもかかわらず、本人もやめず、周りもやめさせず、「いつかできるようになる」と信じて任せる世界って、とても優しい。

後から始めた人にも負けて、何度言われても分からず、それでも自分を信じて諦めずに挑戦する。

周りもそれを見守る。

それがわたしにとっての楽園。

OK プロット

プロット 04 「釜の飯」 20231019

セントラルクエッション

「カエデはうまい飯が炊けるようになるか？」

1、登場

主人公について書く。

カエデは、五感が鈍い。

真剣に取り組むが、微妙な違いが分からない。

「ヤカンのお茶を沸かせて」

蒸気が出ているし、ぼこぼこいっているのに、沸騰に気づかない。

2、背景

世界設定を簡単に書く。

2173年の日本は、環境に配慮して、藁でかまどごはんを炊いて、村単位の給食で食べるようになった。

実践教育で、子どもにもやらせる。

理由

座学で理想を教えた結果、現実に合わせて行動しなくなり、貧しくなったから。

3、発端

異変・事件を起こす。

7歳になったカエデは、母に習い、初めてかまどでごはんをたく。

都会では、電気釜で簡単に炊ける。失敗しづらいが、最高にうまくならない。

かまどのめしは、最高を目指せるからよい。

といわれる。

そして、お母さんはしっかり、「合図」をおしえてくれる。
しかし違いが微妙過ぎて、カエデには分からない。

母の力で、その日はうまくいく。
「うまい飯=母の味」

4、目的

問題や課題を明確化する。

1年母と炊いた後、8歳から一人で炊くようになる。
30人が、1日3回炊くので、10日に1回当番回る。

炊きすぎて焦げたり、
火加減が悪くてだまになり芯ができたり、
まったくうまく行かない。

「お母さんのように早くじょうずになりたい」と思う

5、初動

主人公の決意と覚悟させる。

みんなカエデが当番の時は不味いと思ってることを知る。
→「今日はどんなできかな？」の一言を悪くとる。
→「米炊きやめたい」と母に泣きつく。
→「失敗しても食べてくれるのに期待に答えないでどうする！」と叱責させる。
→「カエデならできる。お母ちゃんが死ぬ前にうまいめしをたべさせてくれ」と抱き締める。

6、障害

行動させて試練にぶつける

男の子ハガネがご飯を残す。
「僕、いらぬ。カエデのごはんはすごくまずい。もう米を炊かないでほしい。代わりに僕が炊く」とハッキリ言ってしまう。
→「頑張ってるカエデになんてこという！」と周りの大人が怒る。
(成長を信じて見守らないのは悪いことだから)
→カエデは「本当のことだからいいのよ。叱らないで」とかばう。
カエデ10歳。男の子ハガネ8歳。

→「でもわたしにもうまい飯を炊くという夢があるの。やめない。だから教えて」とハガネに言う。

7、助力

ヒントや助けを得させる。

ハガネに教えてもらう。

大事なものは数字！

米も、水も計り、藁の重さも、加熱する時間もはかる。

8、達成

成果と成長を実現する。

ハガネのやり方で失敗しなくなる。

周りも母も成長を喜ぶ。

9、難問

新たな問題を発生させる。

でもお母さんの味とは違う。

観察するのだが、微妙な違いが分からない。

同じに見える。

10、無援

助け無しで苦境に苦しむ。

試してみたいが、失敗したら村人に迷惑がかかるのでできない。

○繰り返しのフレーズ

ちっちちちちっ

ざっざっざっざっ

ぶくぶくぶくぶく

11、窮地

危機と絶望を味わわせる

試せないまま 50 になる。

母が倒れる。

「死なないで、まだうまい飯を食べさせてない！」

→「普通でいいのよ。普通で十分」と母がカエデを慰める。

→それが最期の言葉になる。

→ショックで米炊きができなくなる。4月くらい。

12、光明

逆転と起死回生の一手を示す。

8月の合同葬儀で、米を炊くように頼まれる。お母さんの初盆だから。

→乗り気じゃなかったけど、「カエデが炊かないなら今年は飯抜きだ！」と言われて渋々やる。

13、勝負

最終課題と対決・対峙させる。

母たちへのお供えなので、昔、母に言われたアドバイスを思い出しながら、タイマーに頼らず炊いてみる。

→母の言ってた合図がわかる！

→見た目は美味しそうだ。

→最初のごはんをお供えする。

供えるまで食べてはいけない。

→葬儀で心の中で「うまいごはんをたべさせたかったよ」と泣く。

クライマックスの合同葬儀のシーンで、YOSHIKIさんのレクイエム流して、HYDEさんにハミングで歌ってほしい。

会場で

ウォーウォーウォー

とか音を歌うやつ。

葬儀歌手が歌ったら、

村人も参加して、

みんなで死者を思い出して歌うの。

14、結末

決着と結果を示す

給食室に戻ってくる。

→カエデはまだ自分が炊いたごはんをたべてない。うまいごはんをたべされられなくて悲しくて泣いてる。

(うまくできてないと思いついでいる)

→村人が食べる。変化にきづく。たべろと強くカエデにすすめる。

→たべてみる。うまい。

→悲しみの涙が、喜びの涙に変わる。

→葬儀に合わせて帰っていた技術者のハガネもほめてくれる。

「おまえ、まずいけなしたくせに」

「そうだっけ？ おぼえてない」

15、閉幕

おまけで後日談を書いてもいい

カエデが60で引退する。

10年、うまいめしをたべさせて、カエデは満足してる。

村人と「ハラハラどきどきのカエデ飯が懐かしい」と笑い話にされてる。

給食室で食事ができるのを待っている。

→初めて一人で炊いた子どもが、芯のあるごはんを炊いてしまう。

→みんな懐かしい。

→「この子は何年で炊けるかな？」とみんな思う。

メモ「かまどのめし」20231020

人が生きてる間にできることは、レベルにあった取り組みだけ。

才能は差がある。選べもしない。

でも才能あるのに開花させようとせず、自堕落に生きるより、できて当たり前のことでも、よりよく目指す方が尊敬する。

できることのレベルを比べて点数つけず、その人なりに精一杯やってることを認めて応援する関係が、わたしにとっては楽園だ。

もちろん、理想で現実はそうはならないだろう。

それでもそうありたいと目指して向かっていきたいものを見せたい。

やっと制度から生まれる感情を捕まえられた。

10年くらいかかった！

わたしがもう10年かけて表現を磨けるように、OK 出たプロットを公開します。

プロット「かまどのめし」20231018

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
